



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:54-56.

集中治療室における長期入室患者の家族のニーズ

高橋 洋介, 川嶋 勇平

## 集中治療室における長期入室患者の家族のニーズ

キーワード：集中治療、長期入室、家族看護

○高橋洋介、川嶋勇平

旭川医科大学病院 集中治療部

○目的：クリティカルケア領域において長期入室している患者家族に着目し、ニーズの明確化をすることで今後の家族ケアを充足させる。

○方法：2015年4月1日から2016年3月31日までにICUに15日以上在室していた、NANDA-1看護診断分類における「介護者役割緊張リスク状態」が診断されている患者15名の看護記録より、患者家族の発言や状況を抽出した後ろ向き観察研究を行った。CNS-FACEスケールの行動評定用紙にある46項目を参考にし、コードを分類。入室2週間以降を長期患者に設定し、その前後でニーズの割合を明らかにした。

審査委員会で承認の得られた文書を当学倫理委員会HPに掲載し情報公開を行うことで拒否機会を保障した。調査により得られたデータを扱う際は、対象者の個人情報保護に十分配慮し、自施設で厳重に管理し自施設外に個人情報の持ち出しは行わないこととした。

○結果：2週間前後を比較すると情緒的サポートが著明に上昇しており、コーピング方法として、情動的コーピングが上昇していた。ニーズは情緒的サポート、情報、接近、保証、社会的サポート、安楽・安寧の順に高かった。

○考察：情緒的サポートのニーズは、入室2週間以降に高値を示しており、将来への不安や患者の死を意識した発言といった悲嘆の表出があるためと考える。また家族に迫られる重大決定は、本人の意思を聞くことができない家族の心

理的ストレスになっており、ニーズ上昇の要因と考える。情緒的サポートのニーズ上昇に伴い、情動的コーピングは上昇しており、感情表出を促すため場を整え傾聴していくといったコーピング促進によりニーズ充足が期待される。情報のニーズはICUではモニター等の情報量が多く、患者状態の関連を知りたいという思いがあるため高値となったと考える。また患者自身との意思疎通が困難なことも多く、医療者へ状態の情報を求めていることが考えられる。情報のニーズ充足には、信頼関係を構築していくことで患者家族と看護師間のコミュニケーションが円滑になり、情報を得ることが容易になっていく。接近のニーズは、治療が長期化している患者に対し、予後・回復への不安や“何かしてあげたい”という思いが強くなり上昇している。また家族が治療環境へ順応し、呼びかけやタッチングがしやすくなることでニーズが上昇した要因だと考える。このニーズを充足するためには、可能なケアや注意点を伝えるといったケア参加の容易化が必要である。と考える。

○結論：長期入室患者家族のニーズは情緒的サポートが最も高く、次いで情報・接近のニーズが高かった。各ニーズの充足、コーピングを促進するためには感情表出の場を整え、傾聴するケアが必要となる。また、情報提供や信頼関係構築に努めることが必要となる。

旭川医科大学病院 集中治療部

## 集中治療室における 長期入室患者の家族のニーズ

○高橋洋介 川嶋勇平

## 日本家族看護学会 COI 開示

発表に関連し、発表者および全ての共同発表者には過去3年間に於いて、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

高橋洋介 川嶋勇平

## はじめに

- ▶ 集中治療室とはクリティカルなケアが求められている場  
→ 家族への積極的なケアが少ない。
- ▶ クリティカル領域の長期入室患者の家族に関する研究は少ない。
- ▶ クリティカルケア領域において長期入室している患者家族に着目し、ニーズの明確化をすることで今後の家族ケアを充足させることを目的とした。

## 研究方法

- ・対象期間：2015年4月1日から2016年3月31日。
- ・対象者：ICUに15日以上在室していた40名の患者で、「介護者役割緊張リスク状態」が看護診断されている患者15名。
- ・介護者役割緊張リスク状態とインフォームドコンセントの看護記録より、患者家族の発言や状況を抽出した後向き観察研究。
- ・CNS-FACEスケールの行動評定用紙にある46項目を参考にし、サブカテゴリーとしてコードを分類。入室2週間前後に分け集計しニーズの割合を明らかにした。

## 倫理的配慮

- ▶ 本研究では、審査委員会で承認の得られた文書を旭川医科大学倫理委員会ホームページに掲載し情報公開を行うことで拒否機会を保障する。
- ▶ 調査により得られたデータを取扱う際は、対象者の個人情報保護に十分配慮する。特定の個人を識別することができないよう、対象患者に符号もしくは番号を付与する。対応表は自施設で厳重に管理し、自施設外に個人情報の持ち出しは行わない

## 結果

図1 入室14日以内

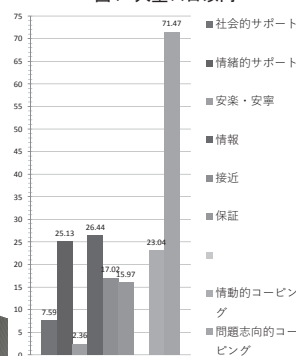
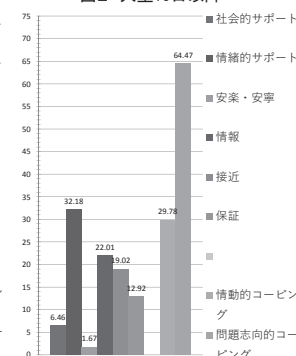
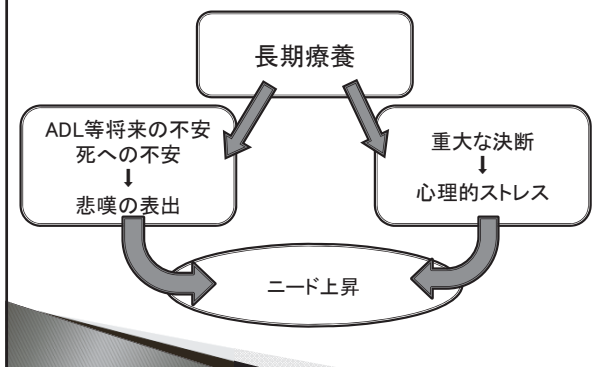


図2 入室15日以降



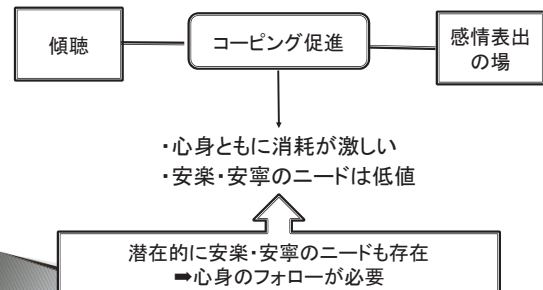
## 考察 情緒的サポートのニーズについて



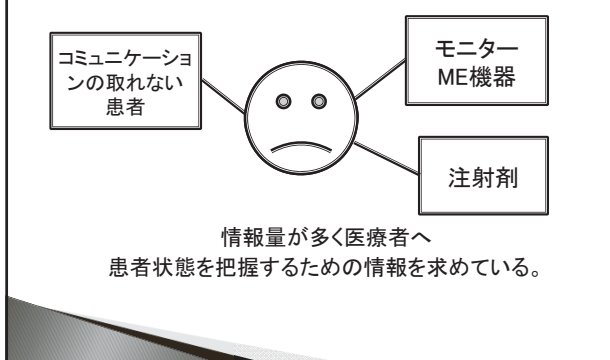
## 考察 情動的コーピング

情緒的サポートのニーズ上昇

⇒情動的コーピングを行うために上昇する



## 考察 情報のニーズについて



## 考察 接近のニーズ

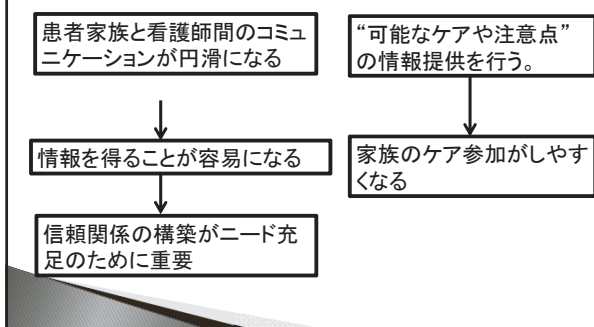
▶ ケア参加⇒反応から予後や回復を実感する。  
長期化しているクリティカルな治療

↓  
予後や回復への不安や  
“何かしてあげたい”という思いが強くなる

▶ 長期入室⇒接近できるタイミングや方法を認識  
↓  
患者に接近しやすくなる

## 考察 ニーズ充足のためのケア

▶ 情報、接近のニーズ



## 結論

・情緒的サポートのニーズが高く、情動的コーピング促進のため感情表出の場を整えること、傾聴するケアが必要である。

・情報、接近のニーズも高く、ニーズ充足のためには、情報提供と信頼関係の構築が必要となる。